

子ノ権現に登ったアーネスト・サトウ

学芸職員 村上 達哉

今年度の特別展「飯能の山をゆく 旅の歴史と自然へのいざない」では、秩父甲州往還の秩父道(後の東京大宮道。現在の国道 299 号線とほぼ同じ道筋)を紹介し、そこを通過して飯能市域にやってきた人物にも触れました。ただ、特別展で触れられなかった人物がおり、それが今回紹介するアーネスト・サトウです。



画像 「吾野名勝絵葉書子ノ権現」昭和 26(1951)年から昭和 31(1956)年頃か

アーネスト・メイスン・サトウ(以下「サトウ」とします)は、天保 14(1843)年にロンドン北東部クラプトンに生まれました。文久 2(1862)年、19 歳の時から、明治 15(1882)年の 39 歳までの間、英国公使館で通訳生、日本語書記官などとして通算約 17 年間日本に滞在、その後、明治 28(1895)年の 52 歳の時には英国の駐日公使として赴任、5 年間日本にいました。サトウは英国を出発した 18 歳の時から、86 歳で死亡する 2 年ほど前まで

日記を書き続け、その中に子ノ権現に登った記述があります。

サトウが吾野を訪れたのは明治 13(1880)年のことです。5 月 24 日の記述に「～(前略)吾野まではほとんど歩きづめで、人力車に乗ったら道に迷い、扇町屋に向かう道を少しはずれてしまった。横手からは四十八瀬川と平行して道が走る。この川は緩やかで静かに流れている。コーンウォール地方の、あの別荘の向こうに広がる湿地牧野を縫って流れるシド川を彷彿とさせる。(後略)～」そして 5 月 25 日の記述には「～(前略)坂石(現飯能市大字坂石)で道はずれ、子ノ権現というお寺に向かった。高い峰の上にあり麓からは 45 分かかった。よく晴れた温かい日である。10 時半に正丸峠に至る。(後略)～」とあります。

四十八瀬川というのは、訳者も指摘するとおり高麗川を指していると思われます。そしてシド川というのは、サトウの父親が別荘を持っていたコーンウォール地方のシドマスを流れる川です。来日前の少年サトウは、よくシドマスの別荘で過ごしていたとのことで、高麗川の流れが懐かしい思い出のシド川を思い起こさせたようです。子ノ権現には坂石から登ったとあるので、秩父御嶽神社南側を通る吾野口の参道を登ったと考えられます。下山した参道についての記述はありませんが、正丸峠(現旧正丸峠)を超えていることから、小床の参道か日用の参道を下りたのでしょう。

【参考文献】

アーネスト・サトウ著/庄田 元男訳注『日本旅行日記 1』東洋文庫 544 平成 4(1992)年